



Kusnacht, Switzerland

FOTECHEM 2025

Screen Process all mesh preparation gel for capillary films

【テクニカル・インフォメーション】

No. 2025 プレップ

脱脂済みのスクリーンに付与する事で表面の濡れ性が向上し、直間法フィルムの均一な貼り付けに必要な水膜形成を可能にします。

使用方法 (1.0kg セット)

1. スクリーンを十分に脱脂して下さい。
2. 新しいスクリーンであれば、「2023」 あらし／脱脂剤の使用を奨めます。
3. 弱い圧力の水スプレーで十分に洗い流して下さい。
4. 濡れたスクリーンに 2025 プレップを両面から塗布します。
5. 1~2 分待ちます。
6. スクリーンの両面から弱い圧力の水スプレーで十分に洗い流します。枠の周辺にプレップが残らない様に注意して下さい。
7. 濡れたスクリーンを立てかけます。
8. 非常に弱い圧力の水をスキージ面から（フィルム面のホコリ／汚れを防ぐため）スプレーし、印刷面に押し出される水で印刷面を濡らし、水膜を作ります。
9. 濡れたスクリーンにキャピラリーフィルムをすぐに貼り付けます。
10. スキージ面を軽く、スキージで掻いて余分な水を取り除きます。枠、フィルムの離形フィルム面の余分な水をペーパータオルで取り除きます。

【ヒント】

2025 を使用することにより、キャピラリーフィルムの接着性が向上します。

キャピラリーフィルムで理想的な印刷を行うには、次の事項を考慮して下さい。

- スクリーンが粗くなれば粗くなるほど、スクリーンに水膜を貼ることは難しくなります。結果、スクリーンが粗ければ、2025 を使用することはより重要になります。一般的に、305 以下のスクリーンには 2025 の使用が有効です。
- スクリーンが細かければ細かいほど、スクリーンのオープンエリアには、より少ない水しか保たれません。結果、細かいスクリーンの場合、ピンホールの無い貼り付けを行うには、印刷面が十分に均一に濡れている必要があります。一般的に、305 以上のスクリーンは、水を伝い流すことによって十分な水膜を貼る必要があります。

製版後のエッジのギザリ、密着不良を避けるには、フィルムの乳剤厚とスクリーンの仕様（メッシュ数、線径等）との相関が適切であることが重要です。



For tomorrow's technology

株式会社トヨーコーポレーション

本社 / 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-8-1
TT-2ビルディング9F <http://www.toyoc.co.jp/>

仙台営業所 022-375-6955	小山営業所 0285-24-7717	東京営業部 03-5695-0571
横浜営業所 045-847-1500	大阪営業所 06-6310-7061	福岡営業所 092-622-1388